

第30回兵庫県在日外国人教育研究集会

開 催 要 項

●日時：2025年1月26日(日) 13:00～16:30

12:30	13:00	14:20	14:30	16:30	17:00	19:00
受付	全体会	休憩	分科会	移動	情報交換会	

●集会テーマ ☆集会規模 300人程度、参加資料代 1,000円、事前申込は不要です。

民族名(本名)で学べ、共生できる学校・地域をつくろう！

◇前半／全体会（開会行事、記念講演）

記念講演 外国人高校生と特別枠—兵庫の外国人教育はどこをめざすのか？

山本 晃輔さん（関西国際大学社会学部准教授）

高等学校における外国人特別枠への関心は高まりをみせている。全国各地の高等学校において外国人枠が設定されていくことで、高校進学率の格差については一定是正されていくだろう。この特別枠の設定はアファーマティブアクションとしての性格をもつものであるが、それゆえに、各地の「外国人教育」への公正観が問われることにもなっている。兵庫県は過去より外国人教育の長い歴史を有しているが、これらは現在の枠校にいかん反映されているのだろうか。現在の枠校が目指すべきことはどのようなものといえるだろうか。本報告では大阪府の事例を参照しながら、「枠校」について考えたい。

◇後半／分科会

第1分科会 外国につながる子どもたちとともに

外国につながる子どもたちを支える

報告者：助野寛太さん(三木市立三樹小学校)

現在、外国籍や外国にルーツをもつ児童は14人いる。国籍や母語も多岐にわたり、日本語を習得するスピードも様々である。日本語指導推進教員を中心に学級担任や専科担当、管理職やスクールカウンセラーとも連携をはかりながら、外国にルーツをもつ児童の自己実現にむけて様々な工夫を凝らしてとりくんでいる。今後これまでのとりくみをいかに持続させていくか、参加者の皆様と情報共有していきたい。

日本語指導を通じて出会った生徒たち

報告者：井口幸治さん

(神戸市立小部中学校、識字教室ひまわりの会、ひょうご夜間中学をひろげる会)

多文化共生教育、日本語指導にかかわる、神戸市の取り組みや現状紹介をする。ただし、神戸市も地域や小学校、中学校でも様子かなり異なり、あくまで自分の経験した範囲で報告となる。次に数名の個別の事例を挙げる。多様な背景や状況を抱える生徒に対し何をどのように進めたか。できなかったのか。そこから見えてくる問題点や展望などを述べたい。また、報告者の前任校が夜間中学校であり、夜間中学との連携、市内の外国人コミュニティとの連携などや、昼の中学校に戻って感じることも述べたい。

第2分科会 国際化の意味

兵庫県の公立高校入試「外国人生徒特別枠」の導入までと、できて10年目の現状

報告者：辻本久夫さん（関西学院大学客員研究員）

外国人特別枠制度は、1970年代の「帰国生徒への配慮」が礎になっている。

1980年代に入り、日本には日本語を母語としない人たちが増えた。言葉等の壁から不登校の子どもが増え、反社会行動等も起こった。状況改善のため、1985年東京都が全国に先駆けて「帰国孤児子弟の高校入学特別措置」を実施し、神奈川県、長野県等に拡がった。兵庫県は2016年実施となった。9年が経過した現状把握と改善が必要な事項を協議いただき、この制度の充実を考えたい。

支援現場から見える課題 子どもたちを中心に

報告者：岸田尚子さん（NPO 法人にほんご豊岡あいうえお）

兵庫県は全国47都道府県の中で12番目に面積が大きい県であり、豊岡市は兵庫県内で一番面積が大きい市である。大きい面積であるにもかかわらず、交通の便が悪い。この広域である豊岡市及び近隣の市町に住む外国にルーツを持つ子どもは平成22（2010）年頃から増加傾向にある。彼ら・彼女らは言葉の壁、生活習慣や文化の違いから生じる戸惑い、学校や進路等、何もわからない。外国にルーツを持つ子どもたちの現状を知ってもらおう。

第3分科会 歴史に学ぶ

ナドゥリミュージアムがめざすもの

報告者：金信鏞さん（一般社団法人神戸コリア教育文化センター）

2024年12月、私たちは新長田に「神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアム」（愛称：ナドゥリミュージアム）を開館した。構想の始まりは2005年両親の故郷巨済島で見た3枚の写真からだったように思う。在日コリアンは時代をどのように生きてきたのか。開設に至るまでの道のり、思い、ナドゥリミュージアムがめざすもの、ミュージアムには何があって、どんな展示がされているのか、今後の課題は…。ぜひ関心と応援をお寄せください。

「生きる希望を断たれたPTSDの復員兵」とその家族

報告者：藤岡美千代さん

（NPO法人猪飼野セツパラム文庫理事、PTSDの日本兵家族会・寄り添う市民の会）

終戦直後、ロシアの捕虜となり3年間シベリアに抑留され、帰国。父が家庭を持った時、すでに戦争PTSDを発症。家の中は暴力の嵐だった。そんな生活を当たり前生きてきた子どもたち。私の生きづらさは父のPTSDからなのではないか。父への再評価を通して、自分に向き合う娘の話です。

●会場：**県立のじぎく会館** JR・阪神電車元町駅から北へ徒歩15分

☆近隣の有料駐車場をご利用ください。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

●後援：兵庫県 兵庫県教育委員会（公財）兵庫県国際交流協会

神戸市 神戸市教育委員会（公財）神戸国際コミュニティセンター

●主催・お問い合わせ：兵庫県在日外国人教育研究協議会（県外教）

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15 県立のじぎく会館内

TEL & FAX : 079-425-1245 Mail : kengaikyo@jeans.ocn.ne.jp URL : <http://kengaikyo.sakura.ne.jp/>